

## みやぎ震災研・座談会

2022年2月27日(日)

岩手大学 杭田俊之

### 『日本の科学者 Vol.57 No.1』 読者の声

- ▶ 東日本復興構想会議が指針として示した「創造的復興」に対し、被災地現場の重要課題として住まい、生業、雇用の回復があり、「県や市町村レベルの復興計画において「創造的復興」と「人間の復興」の要素が混在し、せめぎ合うこととなった」という遠州論文の指摘は、まさに現場感としても腑に落ちた。
- ▶ 政・官・財複合体の施策として被災地に投下される「創造的復興」政策を受け止めるしかない県・市町村自治体、その中でも積極的推進にまわる宮城県と、知事が「答えは現場にある」、「幸福追求権を保障する」と「人間の復興」を混在させた岩手県とが対比されている点は、水産復興の過程を見てきた者として頷けるところが大きいにある。

- ▶ しかしながら「創造的復興」事業に異議を唱える選択肢はどの県・市町村自治体にもなく、大震災からの復興と日本経済の再生を密接不可分なものとした復興基本法において、復興の題目がレトリックとして利用され、「人間の復興」が劣位に置かれても被災自治体として疑問の「声」を上げることが封じられていると感じてきた。ここを乗り越えられないために、原発災害は福島の問題と括り出されて他の被災県、ひいては日本全体で課題共有に向かわず、事実上の分断に傾いているのではないだろうか。
- ▶ 「人間の復興」は、福島、被災地に限らず日本全体の政治的重要課題であり、新自由主義的思考様式が日常化する日本の社会哲学の貧困を示していると思った。

▶ 3

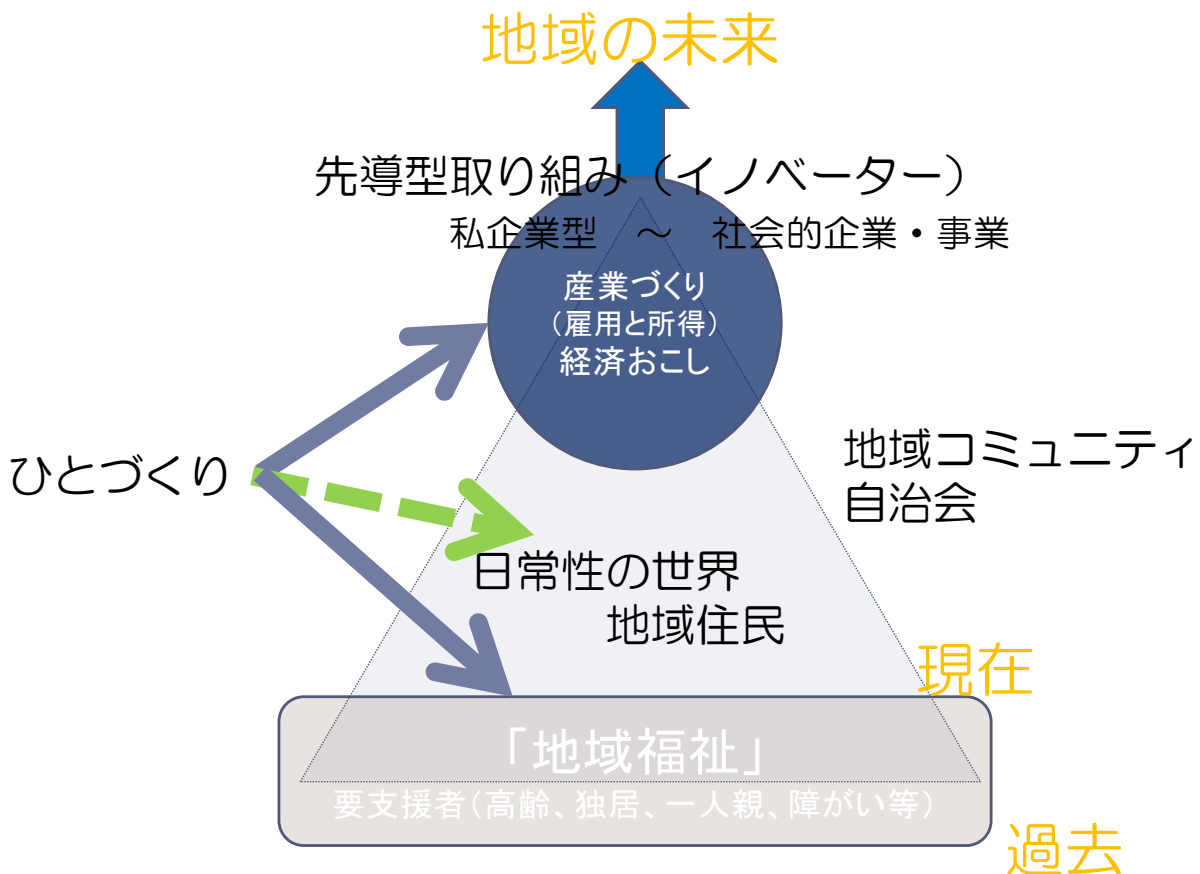
## 復興と地域社会の持続可能性について（杭田・岩手大学）

- ▶ 震災から10年、今後の地域社会、地域コミュニティの持続可能性
- ▶ 地域の多様性を視野に入れた社会的包摂の必要性。
- ▶ 「社会的共通資本(宇沢弘文の概念)」の重要性、All for all の地域づくりは可能か？
- ▶ 題材 連合岩手と連携、地域フォーラム「クラシノソコアゲ」
  - ▶ (2017大船渡)被災した三陸地域の「**安全の確保**」、「**暮らしの再建**」、「**雇用を含めた生業の再生**」を柱とした復興と岩手の将来をテーマに検討、「心の復興」というキーワードが浮上。
  - ▶ (2018盛岡)その後、社会のなかの「**分断の進行**」に対し、all for all の地域づくりによる社会的包摂をテーマに、「**心の復興**」には分野を超えた連携取り組みのための「プラットフォーム」の必要性を提示。
  - ▶ (2019釜石)「**地域づくり**」...地域の多様性と異分野連携・結びつきの可能性を検討。
- ▶ ハードの復興が先行し、定型化できないソフトの復興が残る
  - ▶ 産業基盤、都市インフラと防災建造物、住宅等生活基盤
- ▶ ソフトの復興1:ビジネス起こし、ワンテーマ取り組み
- ▶ ソフトの復興2:いわゆる「こころの復興」これが長期スパンでの課題化

# ハードの復興とソフト (=地域の内実) の復興・充足

- ▶ 復興から地方創生へ → 「地域づくり」の意味するところについて共通課題化が必要
- ▶ 地域づくりのタイプ分け
  - ▶ 経済事業／非営利事業
  - ▶ フロントランナー型／ボトムアップ型
- ▶ ワン・イシュー、ワンテーマ型になりがちな地域振興／地域づくりの多元性
- ▶ 地域取り組みのローカライズの進行
- ▶ ○内発化、ソフトの充足
- ▶ ×視野のローカル化、分断
- ▶ 問い: 地域づくりのプラットフォームとは? → **連携・連帯**

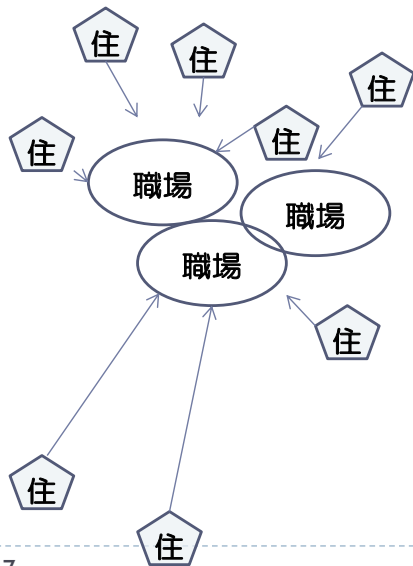
	防災	交通ネットワーク	産業・インフラ整備	住宅
〔ハード〕 開発型 ↓ (県・市町村)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市計画</li> <li>・防潮堤</li> <li>・避難施設等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路</li> <li>・三陸道</li> <li>・三陸鉄道</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水産業復興</li> <li>・沿岸漁業</li> <li>・水産加工</li> <li>・企業誘致</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居住地整備</li> <li>・復興公営住宅</li> <li>・臨海部非居住ゾーン</li> </ul>
↓ 〔ソフト〕 内発型 地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災教育</li> <li>・減災取組み</li> <li>・消防団</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物流・観光</li> <li>・住民利用</li> <li>・交流人口</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブランド化</li> <li>・雇用の場</li> <li>・人手不足対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ再生</li> <li>・地域福祉</li> </ul>



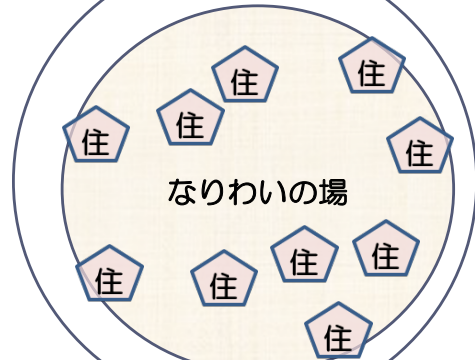
なりわいと地元コミュニティの関係をどう見るか？  
「職＝漁業」と「住＝集落」の支えあいの視点

▶ 都市：職と住の分離

▶ 漁村：職住の重なり合い



地域コミュニティ(住まう場)



なりわいの持続（水産振興）は地域コミュニティの持続性と一体のものという視点を地域、漁協、行政が共有することにかかっている

多様性(土と風、世代、男女) と交流  
ラーニングを通じた地域づくりの視点を

地域の未来

